

平成 29 年度岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）

試験研究課題評価結果票

< 事前評価 >

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	29-事前-1						
課題名	少花粉スギ等の生育状況調査						
課題の概要	県内に設定している「少花粉スギ等モデル林」について、その生育状況を調査し、現状を分析するとともに、苗木生産におけるグルタチオン施用効果を明らかにする。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	3 人	2 人	1 人	人	人	4. 3
	有効性	人	5 人	1 人	人	人	3. 8
	効率性・妥当性	人	4 人	2 人	人	人	3. 7
	総合評価	1 人	4 人	1 人	人	人	4. 0
助言・指摘事項等	<p>1 少花粉スギが本当に少花粉なのか疑問が残るし、誰にも分からないのではないかと。スギの花粉が国民の健康を害しているのであれば、スギを新たに植栽させなければよい。現在、スギの用途は合板材料としての使用がほとんどである。将来、スギの新しい用途が開発されるのであれば、植栽を減らしながらも存続させる必要性も感じられる。</p> <p>2 花粉の少ないスギの普及に貢献する研究と思うが、内容が多岐にわたっているため、計画的な進捗管理に心がけてもらいたい。</p> <p>3 花粉症の軽減は、県民の総意であるといっても過言ではなく、少花粉苗木の植え替えを進めることが重要である。そのための研究面からの支援は必要であり、課題を実施し、成果を役立ててもらいたい。</p> <p>4 社会的な要請、期待、ニーズは明確であり、積極的に取り組むべき重要な課題。長期間の調査を必要とするが、順調に試験研究が実施されれば社会的にも科学的にも大変意義のある成果が得られることが期待される。ただ、生育状況調査では、材質を評価するような調査項目も必要と思われる。また、実験設定では少花粉スギ品種とそうではない品種（対照として）との比較が必要であり、そのような実験設定になるように工夫してもらいたい。そうすれば、グルタチオン施用試験に関しても、少花粉スギ品種とそうではない品種とでその効果を比較することも可能であり、グルタチオン施用試験の意味も明確になるのではないかと。</p> <p>5 少花粉という選択肢を準備しておくことは、公設試験場として重要な技術開発課題であることは間違いないが、中長期的にはスギ需要の予測は欠かせない。県産木によるCLTや集成材などの見通しが明るければ、大変意義の大きい試験となり得る。</p> <p>6 政策上及び県民のニーズとして重要であり、進めてもらいたい。</p>						

平成 29 年度岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）

試験研究課題評価結果票

<事後評価>

- 総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	29-事後-1						
課題名	シカによる森林被害対策に関する研究						
課題の概要	シカによる森林被害の軽減を目的として、県内のシカの生息と被害状況をより詳しく把握するとともに、簡易で効果的な被害対策を検討する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	人	2 人	3 人	1 人	人	3. 2
	有効性（効果）	人	2 人	3 人	1 人	人	3. 2
	有効性（目的以外の成果）	人	3 人	3 人	人	人	3. 5
	効率性・妥当性（費用対効果）	1 人	2 人	3 人	人	人	3. 7
	効率性・妥当性（計画）	1 人	人	5 人	人	人	3. 3
	成果の活用・発展性	人	5 人	人	1 人	人	3. 7
	総合評価	人	2 人	4 人	人	人	3. 3
助言・指摘事項等	<p>1 シカは捕るしかないので、より有効な捕獲方法を研究してほしい。また、捕獲したシカを殺す方法も考えなければならない。動物にも命がある以上尊厳をもって処分してもらいたい。</p> <p>2 シカの捕獲や被害防除については、近年森林管理において非常に重要な課題。今回の報告では、シカの分布動向など、県内での生態について重要な知見が得られた。一方、捕獲罠や防護柵については課題が明確になった点は評価するが、実用化はまだ道のりがあると感じる。研究を継続し、課題解決に取り組んでももらいたい。</p> <p>3 喫緊の課題であるシカ被害対策に地道に取り組み、有益な成果を出している。成果の普及とシカ被害対策の研究のさらなる進展に努めてもらいたい。</p> <p>4 生息状況調査では、アンケート調査と糞塊密度調査によって興味深い結果が得られている。地域や地域内サイトによる違い、あるいは地域間やサイト間関係をもう少し解析することによってより有用な結果を得ることができる。防除対策の検討でも、定期的な点検管理によって侵入防止効果が得られるという結果は有用である。ただ、定期的な点検管理は労力と経費の面で問題もあることから、点検の間隔を変えてみて比較するような検討も必要である。</p> <p>5 当初計画の目標に「被害状況の把握と簡易で効果的な対策の検討」と、やや抽象的な表現であることから「成果が十分か」を判断するのは難しいが、一定の成果は得られている。防護・捕獲の面では、現時点での普及・実用化状況はやや物足りなさもあるが、今後の発展は期待できる。</p>						

試験研究課題評価結果票

＜事後評価＞

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番号	29-事後-2						
課題名	倒木接種によるきのご栽培の実用化						
課題の概要	省力的な原木栽培である「倒木接種法」を利用し、未利用広葉樹大径木や針葉樹間伐材の利用に特化したきのご栽培法の実用化を図る。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	人	4人	2人	人	人	3.7
	有効性（効果）	人	3人	3人	人	人	3.5
	有効性（目的以外の成果）	人	5人	1人	人	人	3.8
	効率性・妥当性（費用対効果）	1人	2人	3人	人	人	3.7
	効率性・妥当性（計画）	人	2人	4人	人	人	3.3
	成果の活用・発展性	2人	2人	1人	1人	人	3.8
	総合評価	人	4人	2人	人	人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1 原木を山から持ち帰り伏せるのは、収穫の利便性のためである。いくらかたくさん収穫できたとしても、わざわざ山に出向かなければならないということは、マイナス因子に思われる。</p> <p>2 既に実用化の目処も立っており、成果としては十分。台風により発生した倒木の利活用や、新たなブランドの開発に発展できることを期待する。</p> <p>3 倒木接種によるキノコ栽培技術は、有益な技術である。技術の普及に努めてほしい。</p> <p>4 実用化が可能な成果であり極めて有用である。また、大径木化した広葉樹林の保全管理，人工林の間伐後の管理の上でも，伐採木の有効利用を進めることにつながり，森林保全の意味からも非常に有用な成果である。できれば，光や水分などの環境条件，あるいは伐採木のサイズによる発生数や発生量の違いを明確にすれば，実用化の面で有用である。</p> <p>5 おおむね目標どおりの成果が得られている。普及のための問題点を整理し、戦略を立ててほしい。栽培法としての特徴を，コストや労働生産性、労働負荷の点から定量化できると良い。</p> <p>6 この成果を普及してもらいたい。</p>						